

日清戦後経営

日清戦争後、朝鮮の政府が反日親露に転じ、日本はロシアの脅威に直面する事態を迎えた。また、清の敗北を契機として、欧米列強がアジア進出を活発化させた。そのため、日本は欧米列強なみの軍勢力増強を、戦後経営の最大の課題として背負うこととなった。しかし、戦中に一致を見た内閣と政党も、対立を再開していた。

○憲政党の結成

●内閣と政党の提携

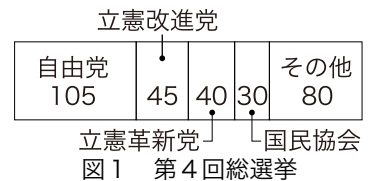
＜第2次伊藤博文内閣 | 1892年8月～96年9月＞

1894～95年の日清戦争は、奇しくも内閣と政党の関係を一変させた。

→第2次⁽¹⁾ _____内閣は、自由党と提携し、

板垣退助を内相として迎えた。

⇒また、自由党は帝国議会で軍備拡張予算の成立に協力した。

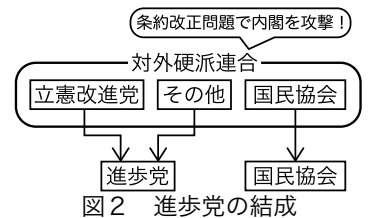


＜第2次松方正義内閣 | 1896年9月～98年1月＞

第2次⁽²⁾ _____内閣は、1896年に結成した進歩党と提携し、大隈重信を外相として迎えた。

⇒第2次(2)内閣は、各省の官僚にも進歩党出身者を迎えたため、^{しょうわい}松隈内閣とも呼ばれる。

◇進歩党…立憲改進黨などの対外硬派連合が、国民協会抜きで結成



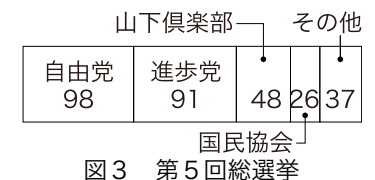
●憲政党の結成

＜第3次伊藤博文内閣 | 1898年1月～98年6月＞

1898年、第3次⁽³⁾ _____内閣が成立した。

→第3次(4)内閣は、地租増税を目指したが、政党と提携できなかった。

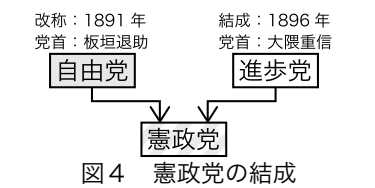
⇒そのため第3次(4)内閣は、超然主義の立場をとった。



この立場に対して、⁽⁴⁾ _____党・⁽⁵⁾ _____党は合同し、⁽⁶⁾ _____党を結成した。

→(6)党は、衆議院に多数の議席をもち、帝国議会で強い力を示した。

⇒第3次(3)内閣は、議会を制する自信を失って総辞職した。



○政党内閣の試み

●初の政党内閣の登場と早期の崩壊

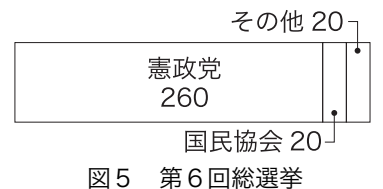
＜第1次大隈重信内閣 | 1898年6月～98年11月＞

次の内閣では、首相に⁽⁷⁾ _____が、内相に⁽⁸⁾ _____が就任した。

→他の国务大臣も、陸・海軍大臣を除き、⁽⁹⁾ _____党出身者が占めた。

→従って、第1次(7)内閣は、政党を母体とする日本初の政党内閣であり、首相・内相の1字をとって⁽¹⁰⁾ _____内閣とも呼ばれる。

⇒しかし、母体の(9)党内で旧自由党・旧進歩党が対立し、安定に欠いていた。



1898年、共和演説事件

…文相尾崎行雄が、発言を天皇への不敬と攻撃された騒動

…「仮に日本が共和制の国家なら、三井・三菱が大統領候補だ」と、
金と政治の癒着の批判に、天皇のいない共和制を想定したことで、
不敬と攻撃できる格好の材料を提供



図6 尾崎行雄

失脚した文相の後任をめぐり、憲政党は次の2党に分裂した。

①旧自由党系の憲政党②旧進歩党系の憲政本党

⇒母体の⁽¹¹⁾ _____ 党が分裂した結果、第1次大隈重信内閣は総辞職した。

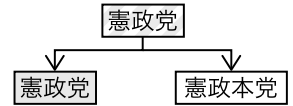


図7 憲政党の分裂

●政党内閣と政党への警戒

<第2次山県有朋内閣 | 1898年11月～1900年10月>

第2次⁽¹²⁾ _____ 内閣は、⁽¹³⁾ _____ 党と提携し、地租増税を実現した。

⇒一方、次の改正・制定によって、政党員が官僚になることを防いだ。

①1899年、⁽¹⁴⁾ _____ 改正

…1893年公布の(14)の改正で、勅任官(天皇の勅命による任命)も、
自由任用から試験任用に変更し、文官になることを難化

②1900年、⁽¹⁵⁾ _____ 制定

…現役の武官である大将・中将から、陸・海軍大臣を任用する制度
…政党員が陸・海軍大臣になることを防ぎ、軍部に対する政党の影響を阻止

◇官僚…行政官である「文官」と、上位の軍人である「武官」に大別

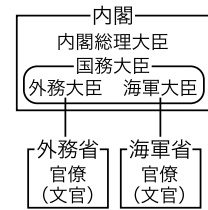


図8 内閣・各省(簡易)

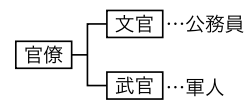


図9 文官・武官

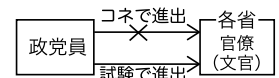


図10 文官任用

1900年、⁽¹⁶⁾ _____ 公布

…台頭する社会主義・労働運動などを抑えるため、
労働者の団結や女性・未成年の政治集会参加を禁止した法令

(13) 党は一連の政策に反発し、政党結成を目指す⁽¹⁷⁾ _____ に近づき、
(17) 派の官僚とともに、(17) を総裁とする⁽¹⁸⁾ _____ を結成した。

⇒提携する政党が離反したことを受け、第2次(12)内閣は総辞職した。

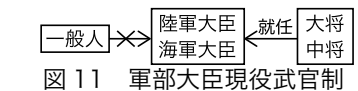


図11 軍部大臣現役武官制

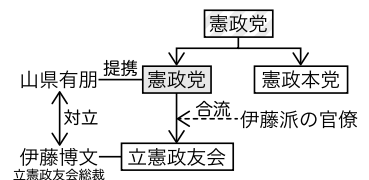


図12 立憲政友会の結成

●政党内閣の再登場と早期の崩壊

<第4次伊藤博文内閣 | 1900年10月～1901年6月>

1900年、⁽¹⁹⁾ _____ を母体とする政党内閣として、

第4次⁽²⁰⁾ _____ 内閣が成立した。

⇒しかし、帝国議会において貴族院の反対に苦しみ、間もなく総辞職した。



図13 桂太郎

●山県と伊藤の後継者

1901年、第1次⁽²¹⁾ _____ 内閣が成立した。

⇒以後、山県の後継者(21)と、伊藤の後継者⁽²²⁾ _____ が政界を二分した。

◇山県・伊藤らは、非公式に天皇を補佐する⁽²³⁾ _____ として首相の選任権を掌握



図14 西園寺公望